

各 位

会 社 名 ラックホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 三柴 元
 (JASDAQ・コード番号：3857)
 問 合 せ 先 執行役員 経営管理本部長 伊藤 信博
 電 話 03-6757-0100

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 5 月 14 日に公表した平成 23 年 3 月期通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 23 年 3 月期通期業績予想の修正

(1) 連結業績予想 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期 純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|------------------------------------|---------------|--------------|------------|------------|-----------------|
| 前回発表予想 (A) (平成 22 年 5 月 14 日発表) | 百万円 33,000 | 百万円 1,120 | 百万円 900 | 百万円 450 | 円 銭 9.93 |
| 今回修正予想 (B) | 33,413 | 1,489 | 1,301 | 851 | 25.75 |
| 増減額 (B-A) | 413 | 369 | 401 | 401 | — |
| 増減率 | 1.3% | 33.0% | 44.6% | 89.2% | — |
| (ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期) | 32,215 | 674 | 407 | △412 | △18.57 |

(2) 個別業績予想 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

| | 営業収益 | 営業利益 | 経常利益 | 当期 純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|------------------------------------|--------------|------------|------------|------------|-----------------|
| 前回発表予想 (A) (平成 22 年 5 月 14 日発表) | 百万円 2,714 | 百万円 665 | 百万円 528 | 百万円 486 | 円 銭 11.33 |
| 今回修正予想 (B) | 2,768 | 778 | 672 | 601 | 15.92 |
| 増減額 (B-A) | 54 | 113 | 144 | 115 | — |
| 増減率 | 2.0% | 17.1% | 27.3% | 23.7% | — |
| (ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期) | 2,023 | 576 | 411 | 311 | 9.53 |

2. 業績予想修正の理由

(1) 連結業績予想

① 売上高

システムインテグレーションサービス事業では、ソリューションサービスにおける自治体向けの案件が拡大したことや、開発サービスにおいて金融機関、製造業向けの案件が拡大したものの証券業や人材派遣業向けの案件で受注が減少したこと、ならびに当社子会社の「株式会社保険システム研究所」を譲渡したことにより、前回予想を下回る見通しです。

セキュリティソリューションサービス事業では、コンサルティングサービスや構築サービスの受注が減少したものの、運用監視サービスにおいて既存顧客の更新受注が堅調に推移したことにより、前回予想を上回る見通しです。

ディーラー事業では、HW/SW 販売において主要なお客様である金融機関や流通サービスなどの非金融機関から大型案件を受注できたことや、SE サービスにおいて官公庁、教育機関などから大型案件を受注できたこと、これらに付随して保守サービスも堅調に推移したことから、前回予想を上回る見通しです。

以上により、売上高は 334 億 13 百万円 (前回予想比 4 億 13 百万円の増加) となる見通しです。

② 営業利益、経常利益、当期純利益

営業利益は、ディーラー事業の売上高が増加したことに加え、オフィス集約を契機に間接業務の集約と効率化により間接要員の適正化を図るなど、グループ全体で販売費及び一般管理費の低減を推進したことにより、14 億 93 百万円 (前回予想比 3 億 73 百万円の増加) となる見通しです。

経常利益は営業利益が増加したこと等により、13 億 5 百万円 (同 4 億 5 百万円の増加) となる見通しです。

当期純利益は、特別損益として子会社株式売却益を計上したほか、本社移転損失引当金の戻入益や投資有価証券売却損益等を計上したことにより、8 億 53 百万円 (同 4 億 3 百万円の増加) となる見通しです。

(2) 個別業績予想

営業収益はほぼ前回予想どおりとなる見通しです。営業利益は、経費低減の推進と間接要員の適正化を図ったことなどにより、7 億 78 百万円 (前回予想比 1 億 13 百万円の増加) となる見通しです。経常利益は、営業利益が増加したほか有利子負債の圧縮を図ったことなどにより、6 億 72 百万円 (前回予想比 1 億 44 百万円の増加) となる見通しです。当期純利益は子会社株式譲渡による特別利益の計上や、間接要員の適正化費用を特別損失として計上したことにより、6 億 1 百万円 (前回予想比 1 億 15 百万円の増加) となる見通しです。

・業績予想に関する注意事項

当資料に記載する業績見通しにつきましては、現時点で得られた情報に基づいて作成しており、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる場合があることにご留意ください。

以 上